

○ 学校の概要 (平成15年4月現在)

	1年生	2年生	3年生	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4		12	22名
生徒数	127	122	153		402	

1. 年度当初の総合的な学習の時間についての課題

- ・ 学校目標、目指す生徒像・授業像、教科などとの関連、指導体制、評価規準を盛り込んだ年間計画の見直し (いつでも、だれでも、どこでも、立ち返れるように一枚のシートに具体的に仕上げる)
- ・ 教育課程の中で総合的な学習の時間の目的や趣旨に沿った活動といわゆる特別活動との時間配分を計画の段階で明示する。
- ・ 外部人材の確保 (体験的学習を学習の動機づけとして設定し、地域の専門の方に支援を受ける)
- ・ 生徒への指導、支援のあり方の工夫改善

2. モデル地域としての研究主題と目標設定

小・中・高連携と地域の教育資源を生かすテーマから、「三校にまたがる浅川の自然」についての総合的な学習時間の教材化を考えてみた。この実践は、地域に流れる浅川の環境に目を向けた子供たちが浅川の美化活動に取り組む中で、どうしたら浅川の河川敷が市民の〇〇の場になるかを「浅川の青さを取り戻し、〇〇の場にしようプロジェクト」として計画するものであった。

① 単元目標を次のように設定した

【課題解決能力】 浅川の散策や保護活動をしておられる方はいないか？取材すると共に、現場に出向き、どんな美化活動ができるか、地域の大人の方や異年齢集団 (小中高生を交えた調査団の結成) 協力を依頼し、環境改善に取り組もうというものである。

【学び方やものの考え方】 浅川の美化活動の実績に学ぶことや、地域住民の願いを調査したりしたことをもとに、より青い浅川、安全な場にするには、どうしたらいいか、を考えることができるようにする。

【主体的・創造的な態度】 浅川の美化活動に関心を持ち、課題解決のために「浅川、〇〇の場にしようプロジェクト」を提案し、行動し今後も地域の環境に積極的に関わっていくことができるようにする。

【自己の生き方】 浅川の環境にどのように関わっていくかを考え、小中高での体験が生きたものとして、引き継がれ、地域の方との関わりを通して、より浅川の環境美事業に対する思いや願いにふれ、地球の青さの美しさとして規模を大きく捉えさせ、その原点として、自分のできる事で地域環境を大切にすることを実感させ学ばせる。

3. 本年度の実施内容及び成果と課題

〈取り組み内容〉 地域環境に働きかける総合的な学習の時間のカリキュラム連携

—浅川の清掃活動等の社会体験活動を軸にして— 【共に踏み出そう、青い地球をより青く】

〈成果〉 体験活動実施後の生徒が記入したワークシートの感想を単元目標に示した観点で分析すると、環境問題に関する課題認識、異年齢集団で実践できた意義、他の教科との関連や自己の生き方に関わる活動の継続性、など実感できたことが読み取れる。

・ 教室での学習、体験学習中、評価 (まとめ) など、総合的な学習の時間でのそれぞれの場面で、教師がどう支援していくかが大きい。「生徒たちの反応にどう答え、この先どうするのか」を考えさせる支援のあり方を研究する意義が大きいことが分かる。

・ 教育課程の中で、体験活動を体系的に総合的な学習の時間の趣旨に沿って展開することは、生徒自身の学習への能動性 (関心・意欲) に繋がるものも大きい。(体験活動は、参加者にやらざるを得ない状況をつくり学習効果も大きい)

・ 異年齢集団で活動したことは生徒により意味の緊張感をもたらし、学習への動機づけを高めた。

・ 異年齢集団では、普段リーダーシップをとれない中高生がリーダーになっていた。

・ このモデル事業の趣旨である外部人材活用では、ゲストティーチャーとして都環境局の環境教育学習リーダーや地域の方々 (PTA、町会の方々) 約20名ほどの協力を得て実践でき、地域に思いの強い方々から直接助言をいただいたことは、生徒たちの課題設定、学習成果として大きな支援となった。

〈課題〉 生徒の自己評価能力をつけさせるためにも、教師の支援が大きく、実践計画 (指導案) に指導と評価の一体化をはかる「教師支援」は、生徒の自己評価力を高める必要からさらに吟味していく。

・ 事前学習において、リーダー会議を行い体験活動実施日にスムーズな展開ができるように打ち合わせを行ったが、事前学習の段階でも異年齢集団での交流学習を展開するとさらに効果的である。

・ 校種を越えて合同学習発表会を実施することをと本年度の実践と共に、参加校独自に行っている「総合的な学習の時間」の内容でモデル事業の趣旨に沿って小中高のカリキュラム連携を図れるよう検討を進め次年度の教育課程に位置付ける。

総合的な学習の時間全体計画

●生徒の実態  
 ・純朴な性格の生徒が多く、「学ぶ意欲」が旺盛で、好奇心が強い。積極的に取り組む生徒が多い。  
 ・生活態度が良く、礼儀正しく、挨拶が丁寧である。  
 ●教師の願い  
 ・自己を見つめ、思いや考えを相手に伝え、受け止めてもらえるよう、自ら主体的に行動する力を育て、自らに誇りをもてる。

●学校の教育目標  
 ○進んで学習し、ねばり強く努力する人  
 ○みんなと協力し仕事に責任をもつ人  
 ○豊かな心をもち正しい行動のできる人

東京都八王子市立四谷中学校  
 ○総合的な学習の時間のねらい(学習指導要領)  
 (1)自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよき問題を解決する資質や能力を育てること  
 (2)学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること  
 (3)各教科で身に付けた知識や技能を相互に関連付け、それらを学習や生活に生かすこと

全校での共通理解事項  
 ・地域との共生、身近な自然の共生、世界での共生、人々の共生について、活用する力を身に付け、開拓し、文化を創造し、発展させること。  
 ・地域との共生、身近な自然の共生、世界での共生、人々の共生について、活用する力を身に付け、開拓し、文化を創造し、発展させること。

本校の総合的な学習の目標  
 「共生」をテーマに掲げ、「共に学びあう学習」として体験活動や問題解決的な学習を通して、人とのかかわり、自己の生き方、地域環境、伝統文化、福祉、人権平和問題等の課題を自ら考え主体的に解決する力を養う。

目指す授業像  
 ○ 体験的な活動を重視し、主体的な学習を通して、深い理解と創造性を育む。  
 ○ 学び方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。  
 ○ 各教科で身に付けた知識や技能を相互に関連付け、それらを学習や生活に生かすこと。

	1年	2年	3年
1年	地域との共生、身近な自然の共生、世界での共生、人々の共生について、活用する力を身に付け、開拓し、文化を創造し、発展させること。	地域との共生、身近な自然の共生、世界での共生、人々の共生について、活用する力を身に付け、開拓し、文化を創造し、発展させること。	地域との共生、身近な自然の共生、世界での共生、人々の共生について、活用する力を身に付け、開拓し、文化を創造し、発展させること。
2年	地域との共生、身近な自然の共生、世界での共生、人々の共生について、活用する力を身に付け、開拓し、文化を創造し、発展させること。	地域との共生、身近な自然の共生、世界での共生、人々の共生について、活用する力を身に付け、開拓し、文化を創造し、発展させること。	地域との共生、身近な自然の共生、世界での共生、人々の共生について、活用する力を身に付け、開拓し、文化を創造し、発展させること。
3年	地域との共生、身近な自然の共生、世界での共生、人々の共生について、活用する力を身に付け、開拓し、文化を創造し、発展させること。	地域との共生、身近な自然の共生、世界での共生、人々の共生について、活用する力を身に付け、開拓し、文化を創造し、発展させること。	地域との共生、身近な自然の共生、世界での共生、人々の共生について、活用する力を身に付け、開拓し、文化を創造し、発展させること。

関係機関との連携  
 ・地域環境リサーチ  
 ・浅川付近在  
 ・北州市役所  
 ・北州市青少年センター  
 ・北州市立八王子高等学校  
 ・北州市立八王子北高等学校  
 ・北州市立八王子南高等学校  
 ・北州市立八王子北高等学校  
 ・北州市立八王子南高等学校

内容・単元

	1年	2年	3年
1学期	仲間との共生(伝統文化) 個人課題別 読解、表現、情報等	仲間との共生(高齢者との交流) チャレンジ 表現、資料活用、探究心	世界の人々の共生(高齢者との共生) 学習 企画力、自己評価力等
2学期	自然環境との共生 環境学習まとめ	自然環境共生体験学習 小高、地域との連携プログラム 小中高学習発表会	社会人との共生 世界の人々の共生(平和問題を中心に) は通年
3学期	世界の人々との交流(国際交流体験学習) 障害者との共生 モジュール 学習成果発表会	世界の人々との交流(国際交流体験学習) 障害者との共生 とじての共生(人的環境) 小中高連携プログラム 学習成果発表会	世界の人々との交流(国際交流体験学習) 障害者との共生 共生 自己実現を求めて 学習成果発表会

教科との関連重点のみ  
 育てたい資質・能力の関連  
 ・教科における固有の目標との関連を図る  
 ・生徒全員が身につけるべき基礎的学習課題の解決、体験学習の実施  
 ・自己の生き方と自己評価力  
 【国語】  
 目的や場面に応じて的確な表現で自らを伝えること  
 【社会】  
 具体的な調査活動や資料の活用を図る  
 【技術家庭】  
 コンピューター操作能力と活用能力  
 上記の教科等との関連は、別掲とする。

特別活動・学校行事との関連  
 ・心身の健康を促す  
 ・社会性を養う  
 ・自主性を育てる  
 ・責任感を育てる  
 ・協力を育てる  
 ・礼儀正しさを育てる  
 ・挨拶を育てる  
 ・清掃活動を育てる  
 ・ボランティア活動を育てる  
 ・文化祭を育てる  
 ・運動会を育てる  
 ・遠足を育てる  
 ・校外学習を育てる  
 ・修学旅行を育てる  
 ・進路指導を育てる  
 ・職業体験を育てる  
 ・社会見学を育てる  
 ・講演会を育てる  
 ・表彰式を育てる  
 ・卒業式を育てる  
 ・入学式を育てる  
 ・開校式を育てる  
 ・運動会を育てる  
 ・文化祭を育てる  
 ・遠足を育てる  
 ・校外学習を育てる  
 ・修学旅行を育てる  
 ・進路指導を育てる  
 ・職業体験を育てる  
 ・社会見学を育てる  
 ・講演会を育てる  
 ・表彰式を育てる  
 ・卒業式を育てる  
 ・入学式を育てる  
 ・開校式を育てる

評価の規準

観点	1年	2年	3年
主体的な問題解決能力	活動を通して、主体的に問題解決に取り組むことができる。	活動を通して、主体的に問題解決に取り組むことができる。	活動を通して、主体的に問題解決に取り組むことができる。
多様なものの見方考え方	多様なものの見方考え方を養う。	多様なものの見方考え方を養う。	多様なものの見方考え方を養う。
創造的な態度	創造的な態度を養う。	創造的な態度を養う。	創造的な態度を養う。
自己の生き方	自己の生き方を考える。	自己の生き方を考える。	自己の生き方を考える。

道徳との関連  
 育てたい資質・能力の関連  
 ・道徳的な心構えを育てる  
 ・責任感を育てる  
 ・協力を育てる  
 ・礼儀正しさを育てる  
 ・挨拶を育てる  
 ・清掃活動を育てる  
 ・ボランティア活動を育てる  
 ・文化祭を育てる  
 ・運動会を育てる  
 ・遠足を育てる  
 ・校外学習を育てる  
 ・修学旅行を育てる  
 ・進路指導を育てる  
 ・職業体験を育てる  
 ・社会見学を育てる  
 ・講演会を育てる  
 ・表彰式を育てる  
 ・卒業式を育てる  
 ・入学式を育てる  
 ・開校式を育てる

評価方法  
 自己評価(仲間や協力者など)  
 活動観察  
 作品分析  
 ワークシート  
 面接質問  
 意識調査など  
 ポートフォリオで行う  
 その他  
 ・時間割編成を工夫し、学年合同の時間確保  
 ・保護者への協力依頼、謝金など外部人材活用の組織化  
 ・総合的な学習の時間の担当者、推進委員の組織化